

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成 20 年 2 月 20 日
調査実施の時間	開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 00 分

訪問先事業所名 (都道府県)	有限会社グループホームさつま坊津 (鹿児島県)
-------------------	------------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊原嘉昭</u> 氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 ケアマネジャー</u> 氏名 <u>阿部 栄 新沢昌子</u> ヒアリングを行った職員数 5 名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 20 年 2 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県4691100012号		
法人名	有限会社グループホームさつま坊津		
事業所名	有限会社グループホームさつま坊津		
所在地	鹿児島県南さつま市坊津町坊2417番地5 (電話)0993-67-2612		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4丁目2-6		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より平成20年1月24日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 17.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建 造り		
	1階建ての1～階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 9,000 円
敷金	有() 円	○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月24日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4	要介護2	7		
要介護3	3	要介護4	4		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82.5 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南さつま市立坊津病院、溝口クリニック、草野歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは代表者の設立当初からの高齢者介護への理念を職員とともに実現しようと努力しているホームである。職員の落ち着いた仕事ぶりにより、利用者の一人ひとりが明るく穏やかな表情で自由に暮らしている。ホームのある地域は、自然に恵まれ、漁港と市街地に近いところに位置しており、地元の行事や祭りに参加するなど地域との交流も深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員に配布して、理解を深め栄養摂取について検討するなど運営や介護サービスの改善に役立てている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催され、地域の代表(公民館)や行政から意見が述べられ、その内容や経過はユニット会議や朝の引き継ぎ時に報告されており、サービスの向上に反映されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の利用料請求時に便りや写真を送ったり、また電話による報告などを行い、家族の意見を聞くようにしている。本年1月からあらたに「ご意見・ご要望書箱」を玄関入口に設置して積極的に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺に住宅は多くはないが、公民館長や婦人会の方々気軽に立ち寄られる。また小学校の入学式や卒業式、運動会に招待され、地元のお祭り(赤水祭)に参加するなど地域との繋がりは強まっている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 熊原嘉昭 / 調査員 浜田千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者の高齢者に寄せる思いが的確に理念となつてまとめられている。地域との関係も「地域へ溶け込み、役立ち、愛され信頼される」ホームを目指すとして位置づけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に復唱するなどして日常の介護活動の指針となっている。管理者、ケアマネジャーは、落ち着いた雰囲気の中で、その実践をリードしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設準備時に公民館を利用した経緯もあり地域との繋がりは強く、公民館長や婦人会の方々が気軽に訪問している。また小学校の入学式、卒業式、運動会などに招待され、地元のお祭り（赤水祭）にも参加するなどして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員に配布して一部記入をするなど理解を深めるよう努めている。外部評価についてもユニット会議（職員会議）などで報告があり、運営や介護サービスの改善に役立たせている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、地域の代表（公民館）や行政から意見が述べられ、その内容や経過はユニット会議や朝の引き継ぎ時に報告されており、サービスの向上に反映させている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南さつま市本所だけでなく坊津支所と日常から地域保健やホーム運営について意見交換をしている。医療連携加算の申請を通じての情報の交流も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書に添えて、写真や行事など近況を報告している。電話での報告も多く、行事への参加などの問い合わせも行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に意見など聞くようにしている。また運営推進会議に家族の代表が参加し意見を述べている。1月から新たに意見・要望書箱を玄関入口に設け、より積極的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで職員の退職も少なく（1～2名）開設時からの職員が継続勤務しており、利用者への影響はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の意向を受けて管理者やケアマネジャーは職員研修には時間を割いている。年間の目標のもとに介護福祉士やケアマネジャーへの資格取得の取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が地域の他施設で研修をうけたり、他施設の管理者に講演してもらうなど、同業者との交流を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用される前に、本人及び家族をホームに招き、実際に見て、また他の利用者と話しをする機会を設けるなどして馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に沿って、管理者やケアマネジャーなどのスタッフと利用者には、おだやかな支えあう人間関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ行動を共にして、意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に利用者及び家族の意見や要望を聞き介護計画を立案し、担当者会議にて検討し、これらの関係者の意見を取り入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のユニット会議（職員会議）で職員からの意見を聞き、家族とも相談して見直しをしている。定期的には3ヶ月毎に、状況の変化によっては随時に行う場合もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながら病院の受診のため送迎支援をしている。医療連携の維持を重視して看護師を配置している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び家族の意向によるかかりつけ医を利用している。それ以外の場合は、相談し了解の上で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで看取りの経験はないが、07年11月市と相談をし「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し同意を得ている。看護師を配置し、利用者及び家族、職員など全員、指針について共有を進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライドを傷つけるような言葉かけにならないように心がけている。また、記録等の個人情報の管理もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や就寝の時間なども従来からの本人の習慣を尊重して対応している。散歩など見守り、同行して本人のペースを大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は静かな雰囲気の中で職員と一緒にしている。盛り付けや後片づけをする利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を原則としているが、希望や状態により入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家の前の菜園の手入れや収穫、台所での盛り付け、洗濯物のたたみなど分担している。職員の見守りの中で周辺を安全に散歩している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や希望による帰宅など外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。地域の人にも理解を得られ声かけや連絡をしてもらえる関係ができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもとで消火、通報、避難訓練を行っている。その際、地元の消防団の参加も得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が分担しカロリー計算の見本表を参考に作成している。また個別にチェック表にて食事の摂取量は把握されている。		水分摂取のチェックをすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て花や絵画をかざり、共用空間づくりも居心地良く過ごせるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダ付きの居室は広々しており、使い慣れた家具などあり落ち着いた雰囲気がある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。